

## 補償コンサルタント情報コミュニケーション誌

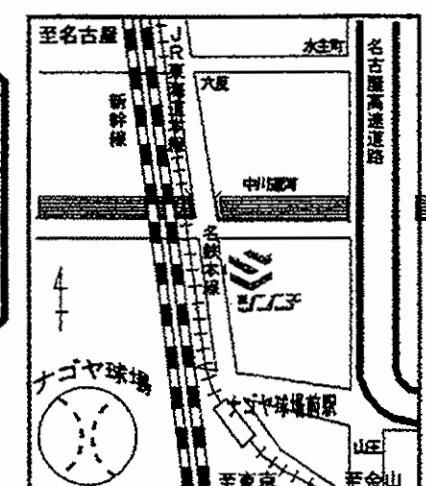
ミニコミ  
株式会社 新日 補償ミニコミ

発行日 発行所 (株)新日

3ヶ月毎1回 名古屋市中川区山王一丁目8番28号

TEL 052-331-5356 編集者

FAX 052-331-4010 秋山 学



## 補償コンサルの景気は?

世の中じゅうを見ても不況不況と呼ばれています。忙しいなどという言葉は最近ではほとんど聞かれなくなりました。

残業カット、やれ昇給なし等、働く者にとって厳しい話ばかりです。

補償コンサルであつて九州や大阪等の同業者に聞いても調子が悪い。九年度は通常に比べて受注量が何%ダウンだったとか言いります。中部地区の補償コンサルでも調子が悪いという話が大半です。

もつとも同業者同志では、忙しいとか景気が良いという話は過去にも、

しかし、これらの事業に対し、東京や大阪等他の地区的業者も目を向けています。中部の事業は中部地内のコンサルでという図式は今や通用しない時代に入っているものと考えます。

生き残りと今後の発展のため、さらなる努力を進め、起業者のお役に立てるコンサルを目指すとともに、我々自身安心して働ける職場、企業、コンサルを目指す覚悟です。

このところ5年間程、茶業に関する補償業務を携わさせていただき生時代授業中によく寝ていました。先生の講義が子守歌に聞こえた時代もあつたことを思うと、当時は失礼なことをしていたと反省しています。

もつとも学生にとって興味の持てる話題を探すのも講師の仕事かもしれません。また未知のものといえま

る。それは、茶園一つをとっても、茶摘みをして直ちに一次加工をするところから、茶工場との係わり、すなわち茶業の形態(生葉元農家、自園自製農家、茶農協組合員農家、そして買葉業者)によって、茶が生み出す収益性に大きな差があること、あるいは茶の価格が日によって大きく差がある(早ければ早いほど高い)ことから、茶園の性格によって収益性に大きな差があります。

又、茶工場にあってもその適正な配置は、茶園規模と工場規模との整合性、防霜施設による茶葉の品質を確保することと、茶葉の収益性を高めることとが、茶園の運営において重要な要素となります。

これらの検討の中で、平家建住宅について切り取り部分を2階建とする

## 高齢者住宅の補償

こんな住宅が移転対象となつた場合、平家建住宅を二階建に改造する工法の是非について、高齢者的身体が不自由で、日常生活の中で二階への登り降りを余儀なくするようになります。

中、平成十一年度に向けた工法が妥当か否か、疑問が残るところであります。

このような改造の場合、エレベーター設置に

ついて配慮されるよう

な工法が妥当か否かは

改修がなされるか否かは

知りませんが、補償業務にあつても高齢化社会到

来等の時代の変化に応じた考え方を採用していく

必要があります。

社会が大きく変化しよ

うとしている時代背景の

別性を要素として検討し

てきたことは少なかつた

とき、平成十一年度に向

けた工法が妥当か否か、

損失補償算定基準も現在

見直し改訂の作業が進め

られています。

そこで、まずらしくは

この世帯もめずらしくは

あります。

近年、高齢化社会の到

來が話題となりますが、

あります。

これまで、移転工法検討にあたって、一般住宅

の問題が残るところであります。

このように改修の場

合、エレベーター設置に

ついて配慮されるよう

な工法が妥当か否かは

改修がなされるか否かは

知りませんが、補償業務にあつても高齢化社会到

来等の時代の変化に応じた考え方を採用していく

必要があります。

社会が大きく変化しよ

うとしている時代背景の

別性を要素として検討し

てきたことは少なかつた

とき、平成十一年度に向

けた工法が妥当か否か、

損失補償算定基準も現在

見直し改訂の作業が進め

られています。

そこで、まずらしくは

あります。

近年、高齢化社会の到

來が話題となりますが、

あります。

これまで、移転工法検討にあたって、一般住宅

の問題が残るところであります。

このように改修の場

合、エレベーター設置に

ついて配慮されるよう

な工法が妥当か否かは

改修がなされるか否かは

知りませんが、補償業務にあつても高齢化社会到

来等の時代の変化に応じた考え方を採用していく

必要があります。

社会が大きく変化しよ

うとしている時代背景の

別性を要素として検討し

てきたことは少なかつた

とき、平成十一年度に向

けた工法が妥当か否か、

損失補償算定基準も現在

見直し改訂の作業が進め

られています。

そこで、まずらしくは

あります。

近年、高齢化社会の到

來が話題となりますが、

あります。

これまで、移転工法検討にあたって、一般住宅

の問題が残るところであります。

このように改修の場

合、エレベーター設置に

ついて配慮されるよう

な工法が妥当か否かは

改修がなされるか否かは

知りませんが、補償業務にあつても高齢化社会到

来等の時代の変化に応じた考え方を採用していく

必要があります。

社会が大きく変化しよ

うとしている時代背景の

別性を要素として検討し

てきたことは少なかつた

とき、平成十一年度に向

けた工法が妥当か否か、

損失補償算定基準も現在

見直し改訂の作業が進め

られています。

そこで、まずらしくは

あります。

近年、高齢化社会の到

來が話題となりますが、

あります。

これまで、移転工法検討にあたって、一般住宅

の問題が残るところであります。

このように改修の場

合、エレベーター設置に

ついて配慮されるよう

な工法が妥当か否かは

改修がなされるか否かは

知りませんが、補償業務にあつても高齢化社会到

来等の時代の変化に応じた考え方を採用していく

必要があります。

社会が大きく変化しよ

うとしている時代背景の

別性を要素として検討し

てきたことは少なかつた

とき、平成十一年度に向

けた工法が妥当か否か、

損失補償算定基準も現在

見直し改訂の作業が進め

られています。

そこで、まずらしくは

あります。

近年、高齢化社会の到

來が話題となりますが、

あります。

これまで、移転工法検討にあたって、一般住宅

の問題が残るところであります。

このように改修の場

合、エレベーター設置に

ついて配慮されるよう

な工法が妥当か否かは

改修がなされるか否かは

知りませんが、補償業務にあつても高齢化社会到

来等の時代の変化に応じた考え方を採用していく

必要があります。

社会が大きく変化しよ

うとしている時代背景の

別性を要素として検討し

てきたことは少なかつた

とき、平成十一年度に向

けた工法が妥当か否か、損失補償算定基準も現在見直し改訂の作業が進められています。

そこで、まずらしくは

あります。

近年、高齢化社会の到

來が話題となりますが、

あります。

これまで、移転工法検討にあたって、一般住宅

の問題が残るところであります。